

園だより

No.4

R8.6.30

大沢幼稚園園長 長友 六月

TEL (762) 4389 (代)

FAX (762) 4386

<http://www.ohsawa.ednet.jp/>

緊急連絡先 080-2344-7595

夏本番！！そして、夏休みが近づいてきました。お誕生会のお楽しみにし

やぼん玉ショーを開催しました。そこでの子ども達の目の輝きが印象的でした。さて、家庭においても夏の予定を考える時期がきました。夏の自然は子ども達の天国です。虫などの生き物、そして雲・星などにも興味を持ち、小さな生き物に親しみを持ちながら捕まえ、飼育や栽培を通して観察などもしていきたいものです。その触れ合いの中から子どもなりに気づいたり、分かったりする瞬間、そして、やさしい心が育っていきます。自転車や鉄棒、プールでの顔つけは、この時期の子どもにとっては、とても身近で自信へ繋がる活動です。楽しみながら行うように心がけましょう。

園でも元気のもりの活動で、さまざまな夏の活動を用意しています。昨年初めて企画した移動水族館は新鮮で今でも心が躍ります。

この夏をどう過ごすか！最高の夏にしましょう。

幼児期の夏休みの過ごし方で大切なことは、規則正しく生活することです。生活とは身の回りのことすべてを指し、それらを自分で出来ることは行い、出来ないことも少しずつ広げていけるような援助をしたいものです。必要以上に世話を焼きすぎたり、言葉を掛けすぎたり、逆に、テレビやゲーム、食生活にいたるまで放任しすぎることは、本来の夏休みの過ごし方にはなりません。

夏ならではの、長期の休みでないとできない経験や体験を沢山させてほしい。休み明けにひとまわり大きくなった子どもたちに会えるのを楽しみにしています。

自己主張と自己抑制 特に2歳児と4歳児の時期には自己主張が強いと言われていきます。いわゆるイヤイヤ期の真最中で、自己主張が強く出る時期ですが、見方を変えれば積極性の現れと言えます。逆に自己抑制とは言えば、遊びなどで順番を待つ、してはいけないと言われたことはしないとといった、自分をコントロールする力ですが、自分の気持ちを抑える力が強すぎると消極的になっていきます。そして、この自己主張と自己抑制を育てるためのポイントは“褒める”いわゆる褒めて育てることです。自己主張が強い時期には、待つことを褒める（stopを褒める）かけっこのドンが待てることを褒めます。自己抑制が強い時期には、（goを褒める）かけっこで走ることを褒めます。そして、どちらの力も別々に育つものではなく、ほぼ同時期に育つといわれています。見極めが難しいですが、目の前の我が子をどう褒めるのか、親の観察力が大事です。

<健康・生活・安全面で気をつけたいこと>

- ・ あいさつをしましょう。朝起きたら、家族に「おはようございます」、出がけに「行ってきます」「ただいま」、近所の人やお友だち、食事の時の挨拶も、自然にできるようになると良いです。
- ・ 規則正しい生活をおくりましょう。＜早寝、早起き、朝ごはん＞心がけましょう！
- ・ できることは、自分でさせるようにしましょう。おもちゃの片付け、食事後の茶碗の下膳、着替えのしたく、部屋の掃除など。ただし、大人が口だけでいくら言っても子どもは言うことを聞くようにはなりません。まずは、大人が率先し一緒にしながら楽しみを感じるように、上手にできたら、さりげなく褒めてあげましょう。
- ・ 交通事故に遭わないように、交通ルールを守りましょう。信号待ちなど交差点では、前に出すぎないようにしましょう。車の内輪差に注意をしましょう。
- ・ 自転車でのお出かけも多くなると思います。交通ルールをもう一度確認することと、ブレーキ点検を忘れずにしましょう。（ヘルメットの着用も忘れずに）
- ・ 保護者の見える範囲内で遊ぶように約束しましょう。
- ・ 緊急の用（入院など）がありましたら、園にご連絡をください。

<6月の歌>

子どもがしゃぼん玉を飛ばす姿というのは、何とも言えない可愛らしさがあります。一方で、屋根まで飛ぶのは、長いほうで、たいていは一瞬のうちに消えてしまいます。楽しいけれど悲しい、美しいけれど儚い、そんな気持ちが詩の中に込められています。

「しゃぼん玉」は 100 年程前の歌ですが、その当時は生まれた子どもの多く（2～3割と言われています）が学齢期まで生きられないという時代背景が歌に詠まれているもので、少女たちがシャボン玉を飛ばしているのを見た雨情が生きていれば一緒に遊んでいただろうと思ひながら書いた詩とも言われています。遊んでいる子ども達が無邪気にしゃぼん玉をとばす姿と歌詞が重なり、“はかなさや切ない想い” なんとも言えない気持ちになります。誕生してくる命と母親、そして、応援し見守っている周りの人達、全ての力のおかげであるということを改めて考え、感謝する気持ちが湧き起こります。

「しゃぼん玉」	作詞	野口雨情	作曲	中山晋平
しゃぼん玉	とんだ	しゃぼん玉	消えた	
屋根までとんだ		飛ばずに消えた		
屋根までとんで		うまれてすぐに		
こわれて消えた		こわれて消えた		
		風 風 吹くな		
		しゃぼん玉 とぼそ		